

撮影前の準備をしよう

» Keyword レンズ／バッテリー／SDカード／画質モード／画像サイズ

1

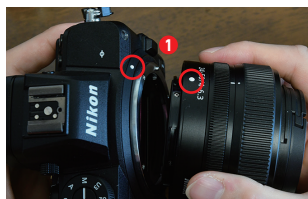
Z 5の基本をマスターしよう

Z 5を購入したら、撮影前にいくつかの準備が必要だ。バッテリーの充電や、カメラ本体の初期設定を行おう。なお、Z 5は**USB端子による給電を行うことができる**ため、モバイルバッテリーを接続することで撮影しながら充電ができる。

1 レンズの取り付け／取り外しを行う

レンズの取り付け／取り外しは、電源をオフにして行うのが基本だ。電源を入れた状態だと、イメージセンサーに電気が通り、ゴミが付着しやすくなるためだ。

■ レンズを装填する

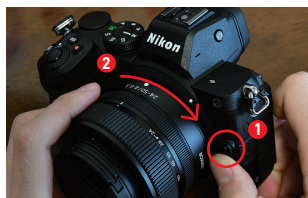


カメラとレンズのキャップを外し、レンズ着脱指標を合わせながら**①**、レンズをはめ込む。



「カチッ」と音がするまでレンズを回す**②**。これでレンズの装填は完了だ。

■ レンズを取り外す



レンズ取り外しボタンを押しながら**①**、装填とは反対方向にレンズを回す**②**。



着脱指標が合うところまで回し**③**、レンズを取り外す。取り外した後は、カメラとレンズにキャップを取り付ける。

2 バッテリーを充電して取り付ける

Z 5は「EN-EL15c」という大容量バッテリーを採用しており、D850など、**一部の一眼レフカメラとも互換性がある**。付属のバッテリーチャージャーを使うか、カメラと電源をUSB-C端子でつないで、バッテリーを充電する。

■ バッテリーを充電する

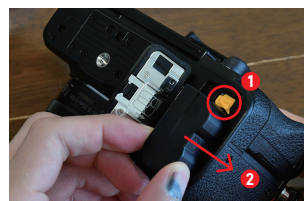


付属のバッテリーチャージャーにバッテリーを差し込む**①**。



チャージャーをコンセントに差し込んで充電する**②**。点滅は充電中、点灯で充電完了だ。

■ バッテリーの装填／取り外し

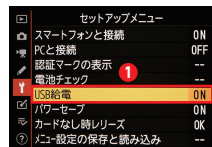


バッテリー室カバーを開き、ツメを避けながら**①**、バッテリーを奥まで差し込む**②**。



バッテリーを取り外すときは、ツメをずらすと**③**、バッテリーが飛び出してくる。

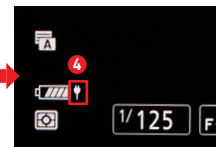
■ USB-Cケーブルで充電する



セットアップメニューから「USB給電」を「ON」にする**①**。



カメラ側面のカバーを開き**②**、モバイルバッテリーなどにつながったUSB-Cケーブルをカメラに差し込む**③**。



充電中はバッテリー表示の横にマークが表示される**④**。

1

Z 5の基本をマスターしよう

Section

04

タッチパネル/タッチキーの
操作を覚えよう

» Keyword タッチパネル/タッチシャッター

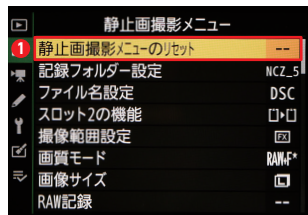
1

Z 5の基本をマスターしよう

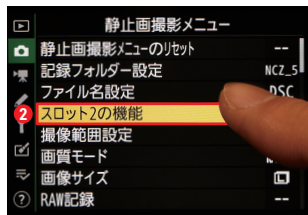
Z 5の画像モニターはタッチパネルになっており、**画面を触ることで操作することができる**。メニューなどの設定変更はもちろんのこと、AFの駆動やタッチシャッターも可能だ。また、不要であればタッチ機能を無効にすることもできる。

1 タッチ操作でメニュー画面を操作する

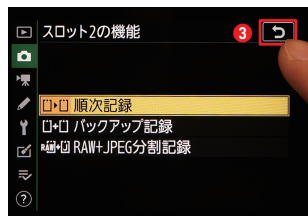
タッチ操作でメニュー画面を操作する場合、**設定したい項目を触るだけで、設定項目の選択や変更ができる**。カーソルを移動させる手間と時間が必要ないため、場合によってはマルチセレクトurerを使った操作よりも素早い設定変更が可能だ。



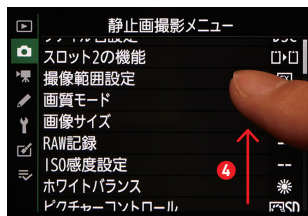
MENUボタンを押して、メニュー画面を表示する①。



設定したいメニューをタッチすると②、その項目が開く。



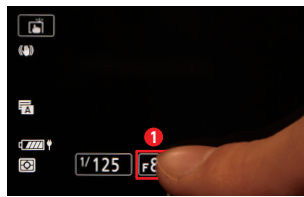
画面右上の[戻る]をタッチすると③、設定を反映させずに前の画面に戻る。



画面をなぞると④、スクロールされて次の画面が表示される。

2 撮影画面でタッチ操作を行う

メニュー画面以外に、**撮影画面でもタッチ操作は有効だ**。その場合、タッチ操作で設定可能な項目は四角い枠で囲われている。画面上で設定項目がない場所をタッチすれば、AFやタッチシャッターが働く。



撮影画面上の四角い枠で囲われている場所をタッチすると①、その項目の設定を変更できる。ここでは絞り値をタッチする。



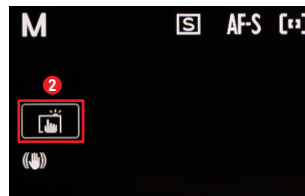
数値の左右に▶が表示されるので②、設定したい数値に合わせてタッチする。

3 タッチシャッターを切る

タッチシャッターは、撮影画面の任意の場所をタッチすることで作動する。ただし、意図しないタイミングでタッチシャッターが作動してしまうこともあるので、あらかじめタッチ操作による動作を設定しておく和良好的。



撮影画面の任意の場所をタッチすると①、AFが作動し、ピントが合ったらシャッターが切られる。MF時はシャッターのみが作動する。



画面左の[Touch Shutter]をタッチすると②、画面タッチ時の動作を変更することができる。

要点

- タッチ操作でメニューの設定や撮影ができる
- 撮影画面では、タッチ操作で設定できる項目が囲われる
- タッチシャッターは動作を設定することができる

1

Z 5の基本をマスターしよう

Section

03

AFエリアモードを選ぼう

» Keyword

AFエリアモード

AFエリアモードとは、**AF使用時のフォーカスポイントの大きさを設定するモード**のことだ。被写体が画面を占める大きさや、被写体の動きなどによって使い分ける。また、AFのモードとセットで考えることが多い。

1 AFエリアモードの種類を知る

AFエリアモードには**6種類のモード**がある。AF-Sのみ、AF-Cのみで使用できるモードもあるため、各モードの特徴と使用条件を確認しておこう。

ピンポイントAF



AF-S時のみ使えるモード。より小さいフォーカスポイントになり、狭い範囲の被写体にピントを合わせる。

シングルポイントAF



ひとつのフォーカスポイントを使ってピントを合わせる。フォーカスポイントの位置を撮影者が選択できる。

ワイドエリアAF(S)



シングルポイントAFよりも広い範囲でピント合わせを行う。動く被写体など、シングルポイントでは捉えにくい被写体に向いている。

ワイドエリアAF(L)



ワイドエリア(S)よりもさらに横に広い範囲でピント合わせを行う。フォーカスポイント内に複数の被写体がある場合、手前の被写体を優先する。

オートエリアAF



すべてのフォーカスポイントの中から、カメラが自動で被写体を判別し、適切なポイントを選んでピント合わせを行う。顔認識や瞳認識(→P.48)は、オートエリアAF時に作動する。

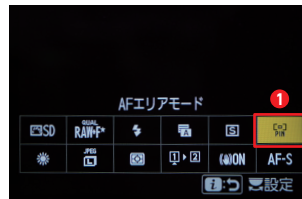
ダイナミックAF



AF-C時のみ使えるモード。1点のフォーカスポイントを使用するが、ピントを合わせた後に被写体が動いた場合、周辺のフォーカスポイントを使用してピントを合わせ続ける。動きが予測できない被写体に向いている。

2 AFエリアモードを設定する

AFエリアモードは、**i**メニューから設定することができる。表示されるモードは5種類だが、**操作時点でのAFのモードによって、表示されるAFエリアモードは異なる。**



iメニューを表示し、AFエリアモードを選択する①。



任意のモードを選択する②。

要点

- AFエリアモードでフォーカスポイントの大きさを選ぶ
- AFのモードによって、選択できるモードが異なる
- AFエリアモードは*i*メニューから設定する

Section

07

ISO感度を理解しよう

» Keyword ISO感度

ISO感度とは、**カメラが感じる明るさの感度を調節するモード**だ。「ISO200」などと表記され、数値が低いほど感度も低く、数値が高いほど感度が高い。ただし、感度が高いほど写真にノイズが発生しやすくなり、ざらざらとした写真になる。

1 ISO感度を設定する

ISO感度は、ISOボタンを押しながらメインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルを回すことで設定する。メインコマンドダイヤルはISO感度の数値、サブコマンドダイヤルは感度自動制御(ISOオート)にするかどうかを設定する。



ISOボタンを押しながら①、メインコマンドダイヤルを回すと②、ISO感度の数値を変更できる③。

ISOボタンを押しながら④、サブコマンドダイヤルを回すと⑤、ISOオートにするかどうかを設定できる⑥。

ISO100



同じ場面で、ISO感度を変えて撮影した2枚。ISO100の写真は30秒の露出で適正露出になった。それに対してISO12800は、1/5秒の露出で同じくらいの明るさになっている。

ISO12800



2 ISO感度を使い分ける

ISO感度を上げて撮影する場面は限られる。**撮影環境が暗く、三脚などでカメラを固定することができず、手持ち撮影で高速シャッターを切る時**だ。暗い中でも速いシャッタースピードで撮影したい時や、三脚が使えない時などに、ISO感度を高めると良いだろう。



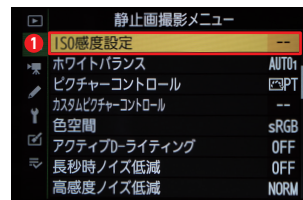
カメラ設定

撮影モード プログラムオート 絞り値 F4 シャッタースピード 1/20秒 露出補正 ±0
ISO感度 2000 ホワイトバランス 晴天 使用レンズ NIKKOR Z 14-30mm f/4 S 焦点距離 18mm

東京駅の駅舎を撮影。この場所は三脚の使用が禁止されているため、適正露出を得るためには、ISO感度を2000まで上げる必要があった。

3 制限上限感度を設定する

ISOオート時に設定されるISO感度は、上限を設定することができる。ノイズが気にならない程度に上限を設定する、といったことができる。



静止画撮影メニューから「ISO感度設定」を選択する①。



「感度自動制御」がONになっていることを確認し②、「制限上限感度」を任意の数値に設定する③。

要点

- ISO感度は、カメラの明るさを測る感度を調節する機能
- ISO感度を高めると速いシャッタースピードで撮影できる
- ISO感度を高めるとノイズが発生しやすくなる

Section

06

Fマウントレンズを使おう

» Keyword

Fマウントレンズ／マウントアダプター

Z 5はZマウントを採用しており、ニコン製デジタル一眼レフで長く採用してきたFマウントとは異なる。しかし、マウントアダプターを使用することで、**Z 5にFマウントレンズを装填することができる**。表現の幅が大きく広がるので試してほしい。

4

交換レンズを使いこなそう

1 マウントアダプター FTZを使う

マウントアダプターFTZを使うことで、ZマウントのカメラにFマウントレンズを装填することができる。Z 5だけでなく、ニコン製のミラーレスカメラのZシリーズ全般で使用できる。



マウントアダプターの指標とカメラの指標を合わせてはめ込む**①**。



マウントアダプターを回転させて装着する**②**。



同じ要領でFマウントレンズを装着する**③**。

2 AF-S NIKKOR 200-500mm f/5.6E ED VR

500mmの超望遠は、Zマウントレンズでは未発表のラインナップだ。遠くに良い被写体がある場合、超望遠レンズがなければ撮影できない。作例は、圧縮効果を応用して波や岩場の迫力を表現し、背後に写る鳥影も距離感や臨場感を増している。500mmの割に小型軽量なので撮り回しも良い。



カメラ設定

撮影モード マニュアル
絞り値 F11
シャッタースピード 1/2000秒
露出補正 -0.7
ISO感度 560
ホワイトバランス 晴天
使用レンズ AF-S NIKKOR
200-500mm f/5.6E ED VR
(マウントアダプターFTZ使用)
焦点距離 420mm

4

交換レンズを使いこなそう

3 AF-S Fisheye NIKKOR 8-15mm f/3.5-4.5E ED

魚眼(フィッシュアイ)レンズは、超広角という画角のほか、極端にデフォルメされる歪みが特徴的だ。このレンズは円周魚眼なので、360度を写すことができ、画面内にボールのように丸く写る。一度は試してほしいレンズだ。



カメラ設定

撮影モード 絞り優先
絞り値 F8
シャッタースピード 1/100秒
露出補正 ±0
ISO感度 100
ホワイトバランス 晴天
使用レンズ AF-S Fisheye
NIKKOR 8-15mm f/3.5-4.5E
ED(マウントアダプターFTZ使用)
焦点距離 8mm

Section

05

ホワイトバランスで
色合いを変化させよう

» Keyword ホワイトバランス

ホワイトバランスは、太陽光や室内光など、さまざまな光源による色の変化に対応し、**人が見た印象に近い色合いに補正する機能**だ。この機能を逆手に取り、色調を大きく変化させることで、カラーフィルターをかけたような写真を撮影することもできる。

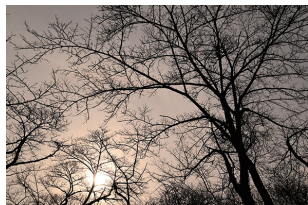
1 白を白として写す

白く見える被写体でも、実際には光源の影響を受けて白以外の色になっている。人間がそれを「白いものである」と認識できるのは、脳内で変換しているからだ。「ホワイトバランス」は、**そういった変換をカメラ内で行う機能**だ。



メニューから「ホワイトバランス」を選択する①。

WBオート



早朝や夕方など太陽の位置が低いと色温度が下がり、アンバー色が強くなってくる。そのまま作品に活かしても良いが、補正したい場合は「オート」が便利だ。蛍光灯やLEDなど、人工光もさまざまな色になるので、その都度補正するのが難しい場合はオートを活用しよう。



任意のモードを選択する②。

WB晴天



2 ホワイトバランスをフィルターとして使用する

ホワイトバランスの補正機能を逆手に取り、**カラーフィルターとして活用**することもできる。夕焼けの場面を「晴天日陰」で赤く写す、夜景を「蛍光灯」で青く写す、などだ。ケルビン値を設定して色温度で写真の印象を変える方法もある。

色温度設定でケルビン値を設定し夕日を撮影



夕焼けの撮影では、実は期待したよりも赤くならないことも多い。そのような時にはホワイトバランスで味付けしよう。かなり印象的に夕焼けを演出することができる。同じ方法は、紅葉の赤味を強調したい時にも有効なので、秋の風景写真にも使ってみると良い。

カメラ設定

撮影モード 絞り優先 絞り値 F11 シャッタースピード 1/125秒 露出補正 ±0 ISO感度 100
ホワイトバランス 色温度設定(10000K) 使用レンズ NIKKOR Z 14-30mm f/4 S
焦点距離 14mm(撮像範囲「DX」21mm相当)

夜景を電球で撮影



電球モードは、濃いアンバー色になる光源を補正するために、濃度の高い青色に被る。電球色がある部分は補正され、色味が白色に近くなる。この写真は暗くなってからの撮影だが、暗い夜空も青色に染まり、まるでブルーモーメントのように輝いた。

カメラ設定

撮影モード 絞り優先 絞り値 F16 シャッタースピード 30秒 露出補正 ±0 ISO感度 100
ホワイトバランス 電球 使用レンズ NIKKOR Z 24-70mm f/2.8 S
焦点距離 (撮像範囲「DX」45mm相当)

要点

- ホワイトバランスとは、白を白として写す機能
- 「オート」でほぼすべてのシーンに対応できる
- カラーフィルターとして使用することもできる

Section

02

ノイズの少ない
夜景写真を撮影しよう

» Keyword トワイライト/スローシャッター/HDR

夜景写真は暗くなる直前の**トワイライト**の時間に撮影するのがコツだ。完全に暗くなるとディテールが見えなくなり、コントラストが強くなる。ちょうど良い時間の目安は、気象条件や方角によっても異なるが、**おおよそ日没後2～30分ぐらい**だ。ホワイトバランスは基本的に晴天に設定し、空の色が美しい時間にオートは使わないようにしよう。暗くなってからは、イメージを変えてほかのホワイトバランスを試す。

6

シーン別撮影テクニック



手前の街に光源がたくさんある被写体を選ぶ

西向きで快晴の夜は、暗くなるのが遅いため、**手前の街に光源がたくさんある被写体を選ぶ**と美しく仕上がることが多い。逆に光がない場合は逆光になり、夜景写真としてはかなり難しい撮影になる。人工光がたくさんあり、さまざまな色が複雑に混同するので、ホワイトバランスは色味に忠実な「晴天」で撮影した。

カメラ設定

撮影モード	絞り優先	絞り値	F18	シャッタースピード	15秒
露出補正	±0	ISO感度	100	ホワイトバランス	晴天
使用レンズ	NIKKOR Z 14-24mm f/2.8 S				
焦点距離	14mm				

1 水たまりの反射でシンメトリー構図を作る

シンメトリー構図は、**被写体が対称になるように徹底的にこだわる**。少しでもズレると、イメージが壊れ台無しになるからだ。これは水面に写る鉄道橋だが、対称になる中央部が暗いのであまり大きくならないように、水面から10cmほどのギリギリの高さにカメラを構えた。実はこの水面は少し大きい水たまり。広角接写を応用し、水たまりが大きく見えるように写している。



カメラ設定

撮影モード 絞り優先
絞り値 F16
シャッタースピード 30秒
露出補正 ±0
ISO感度 100
ホワイトバランス 晴天
使用レンズ NIKKOR Z
14-30mm f/4 S
焦点距離 14mm(撮像範囲「DX」21mm相当)

2 バランスをとって安定した構図を作る

安定した構図は、写真を見た人に落ち着いた印象と安心感を与える。意識的に東京タワーを中央に配置し、分割構図で地上を広く配分した。左奥のビル群と、右奥から中央手前に伸びる道路は絶妙なバランスを保っている。仮にこれらの被写体のうちいずれかが画面に入っていなければ、アンバランスな構図になっていただろう。



カメラ設定

撮影モード 絞り優先
絞り値 F11
シャッタースピード 10秒
露出補正 ±0
ISO感度 100
ホワイトバランス 晴天
使用レンズ NIKKOR Z
14-30mm f/4 S
焦点距離 14mm

6

シーン別撮影テクニック

Section
02カメラの画像を
スマートフォンに転送しよう

» Keyword

SnapBridge / Wi-Fi / Bluetooth / 転送

SnapBridgeでカメラとスマートフォンを接続したら、カメラの画像をスマートフォンに転送してみよう。画像の転送にはZ5のWi-Fiを使用する。スマートフォンの操作で転送するほか、カメラ側の設定で**撮影と同時に転送を開始することもできる**。

1 スマートフォンの操作で画像を転送する

カメラの電源が入っていれば、**スマートフォンの操作だけで画像を転送することができる**。カメラの電波がスマートフォンに届く位置で操作しよう。本書ではiOSを使用して解説する。



カメラと接続されていることを確認し①、「画像取り込み」をタップする②。



カメラ内の画像が一覧で表示される。取り込みたい画像をタップする⑤。



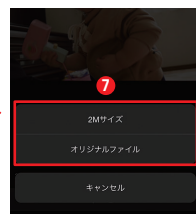
カメラのWi-Fiの起動確認画面が表示されるので、「OK」をタップする③。



画面下部の「取り込み」をタップする⑥。



再度確認画面が表示されるので、「接続」をタップする④。

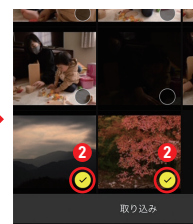


取り込む画像のファイルサイズを選択してタップする⑦。

複数の画像を転送する



P.138「⑤」の画面で、画面右上の「選択」をタップする①。



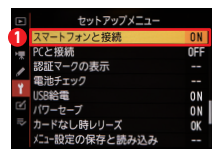
取り込む画像を複数タップする②。



取り込む画像のファイルサイズを選択してタップする③。

2 カメラの操作で画像を転送する

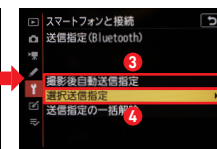
カメラ側の操作で画像を送信することもできる。その場合、撮影した画像をすべて自動で送信することも可能だ。ただし、カメラのバッテリーの減少が早くなるので、注意が必要だ。



セットアップメニューから「スマートフォンと接続」を選択する①。



「送信指定 (Bluetooth)」を選択する②。



「撮影後自動送信」は③、撮影した画像をすべてスマートフォンへ送信する。ここでは「選択送信指定」を選択する④。



送信する画像にカーソルを合わせ、Qボタンを押して選択する⑤。選択し終わったらOKボタンを押す。



Qボタンを押さばなしにすると、画像を拡大して確認できる⑥。

要点

- スナップブリッジを使用し、カメラ操作で画像を転送する
- 1枚ずつ転送する方法と、複数の画像を転送する方法がある
- カメラ側の操作で転送することもできる

Section

05

省電力機能を設定しよう

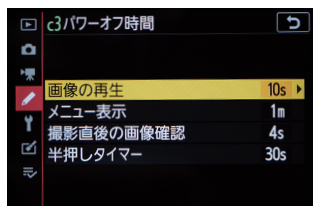
» Keyword パワーオフ時間／パワーセーブ

デジタルカメラのバッテリーを消費する機能はさまざまにある。その中には不要なものもあるだろう。ひとつひとつの機能を見直すことで、ひとつのバッテリーだけで長時間の撮影を楽しむことができる。

1 パワーセーブとパワーオフ時間を設定する

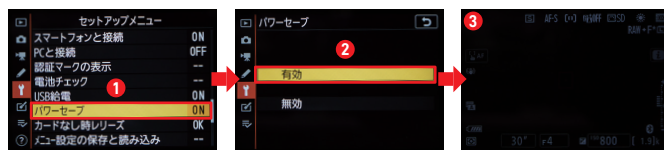
初歩的な省電力設定は、**パワーオフ時間**だ。これはP.29で既に解説している。各画面ごとに設定しよう。一方**パワーセーブ**とは、一定時間カメラが操作されなかった時、画面が暗くなりバッテリー消費を節約する機能だ。まずはこの2つの機能を設定することが、バッテリー消費を抑えることにつながる。

パワーオフ時間



「パワーオフ時間」は、画面ごとに連続表示時間を設定できる。操作方法はP.29の通りだ。自分の撮影スタイルに合う時間を設定しよう。

パワーセーブを設定する



セットアップメニューから「パワーセーブ」を選択する①。

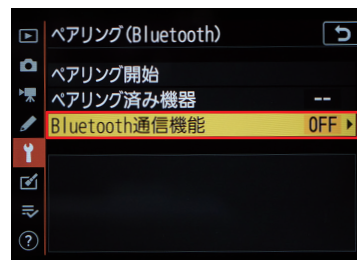
「有効」を選択する②。

撮影画面で一定時間カメラを操作せずにいると、画面が暗くなり、動きがコマ送りのようになる③。

2 省電力ができる機能

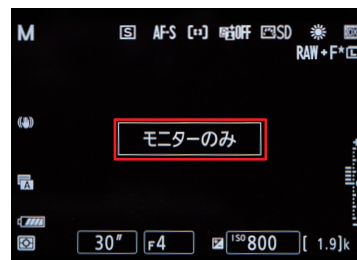
「パワーオフ時間」や「パワーセーブ」以外にも、工夫次第でバッテリーを節約できる機能がある。ここではいくつかの例を解説する。

Bluetooth機能



P.136で解説したBluetooth機能は、カメラから電波を発するため、バッテリーを大きく消費する機能のひとつだ。スマートフォンと接続する時以外はOFFにしておこう。

モニターモード



電子ビューファインダーとライブビュー画面を自動で切り換える「モニターモード」(→P.24)も、バッテリー消費の大きな要因だ。「自動表示切り換え」や「ファインダー優先」だと、ファインダーのアイセンサーが常に働いているため、電力を消費する。節電を優先するなら「モニターのみ」「ファインダーのみ」にするのが良いだろう。

One Point

最大の要因は「冷え」

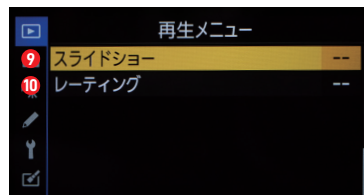
バッテリー消費の最大の原因は「冷え」だ。雪が降るような寒い環境下では、どうしても電力消費が速くなる。省電力ができる工夫をしつつ、USB給電(→P.15)を活用しよう。



要点

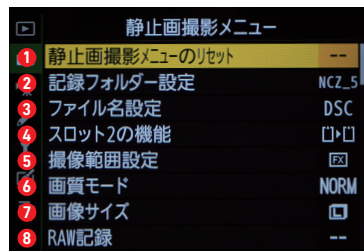
- 「パワーオフ時間」と「パワーセーブ」を設定する
- 電力消費の大きい機能をOFFにする
- 最大の電力消費は冷え

全メニュー画面一覧



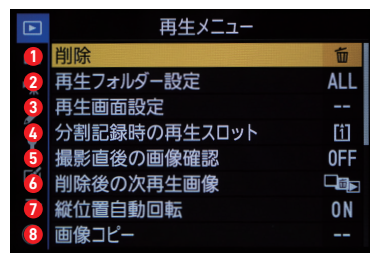
9 スライドショー	縦画像や動画を連続再生する。メニューには「開始」「再生画像の種類」「インターバル設定」から選べる
10 レーティング	選んだ画像にレーティングを設定できる。★1～5から選ぶ

2 静止画撮影メニュー



1 静止画撮影メニューのリセット	静止画撮影メニューをリセットして初期設定に戻す。「する」「しない」から選ぶ
2 記録フォルダー設定	画像を保存するフォルダーを設定する。「フォルダーグループ名変更」「フォルダー番号指定」「既存フォルダーから選択」から選ぶ
3 ファイル名設定	Z 5で撮影した画像のファイル名を任意に設定できる。設定したファイル名の後ろに番号が付随される
4 スロット2の機能	2つあるメモリーカードスロットの両方を使って画像を記録するときの、スロット2の機能を設定できる
5 撮像範囲設定	撮像範囲を設定できる。「FX (36×24)」「DX (24×16)」「1:1 (24×24)」「16:9 (36×20)」から選ぶ
6 画質モード	画像を記録するときの画質モードを選ぶ。「RAW+FINE」「RAW+NORMAL」「RAW+BASIC」「RAW」「FINE」「NORMAL」「BASIC」から選ぶ
7 画像サイズ	画像サイズを選ぶ。「L」「M」「S」から選ぶ
8 RAW記録	RAW画像を記録するときの記録ビット数を設定する。「12ビット記録」「14ビット記録」から選ぶ

1 再生メニュー



1 削除	複数の画像を一括して削除するときに使う。「選択画像削除」「日付選択」「全画面削除」から選べる
2 再生フォルダー設定	再生時に表示される画像のフォルダーを選ぶ。「フォルダーグループ名」「全てのフォルダー」「記録中のフォルダー」から選ぶ
3 再生画面設定	画像再生時の表示情報を選ぶ。情報の追加として「フォーカスポイント」「再生画面の追加として「露出情報」「ハイライト」「RGBヒストグラム」「撮影情報」「統合表示」「画像のみ」から選ぶ
4 分割記録時の再生スロット	静止画撮影メニュー[スロット2の機能]を[RAW+JPEG分割記録]に設定して分割記録したとき、再生するスロットを選ぶ
5 撮影直後の画像確認	撮影直後に画像を自動的に表示するかどうかを選ぶ。「する」「する(画像モニター表示のみ)」「しない」から選ぶ
6 削除後の次再生画像	画像を削除した後に表示する画像を選ぶ。「後ろのコマ」「前のコマ」「直前コマ送り方向に従う」から選ぶ
7 縦位置自動回転	縦位置で撮影した画像を、自動的に回転して表示するかどうかを選ぶ。「する」「しない」から選ぶ
8 画像コピー	メモリーカードを2枚使用しているときに、メモリーカード内の画像をもう一方のメモリーカードにコピーする